

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/在宅看護学】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
在宅看護援助論Ⅰ		NSP33_008	必修	1	2	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
渡邊 美樹 他		303	m-watanabe		水曜日 12:10～13:00	
授業の目的・概要	地域における看護を実施するために必要な知識と技術・態度、看護過程の特徴を学修する。主に、訪問看護師による自宅等で療養する方や家族等への援助の実際を知り、生活の場で行われる看護援助の理解を深める。具体的には、訪問に際して必要な知識や技術・態度、日常生活支援と医療処置管理に関する知識と技術、多職種との連携・協働に必要な知識と技術などの地域看護の特徴を学ぶ。また、多様化する地域看護の場を理解するために退院支援や外来看護、地域包括支援センター等の看護活動を知り、医療・保健・福祉からみた地域看護の必要性と役割を学ぶ。					
授業形式・方法	☒対面授業 ☐遠隔授業(双方向型) ☐遠隔授業(自主学習) ☒講義 ☐実習 ☒演習 ☒実技 ☐PBL ☒グループワーク ☐その他 () ☐反転授業 ☐プレゼンテーション ☐ディスカッション・ディベート ☐実習・フィールドワーク					
学習上の助言	地域在宅において人々の健康を支援する看護への期待が高まっている。自分の周りの人々の暮らしや日常生活に関心を持ち、想像力をもって授業に取り組んでほしい。 授業初回に配布する演習ガイドを参考に、授業の学びを積み重ね、主体的に学んでほしい。					
教科書	・ナツシグ・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア /編:臺由佳 他 /パブリック出版 /2022 ・ナツシグ・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 /編:臺由佳 他 /パブリック出版 /2022 (2冊指定)					
参考書	特になし					
外部教材	特になし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	地域在宅看護が実施される場や対象者をイメージすることができる。				NS(1)	
②	訪問する際の準備や心構え、マナーを理解し実演できる。				NS(1)～(3)	
③	在宅療養者と家族等の生活や医療に関するニーズを把握する方法を説明できる。				NS(1)～(3)	
④	在宅療養者と家族等への日常生活援助の援助方法を説明できる。				NS(1)～(3)	
⑤	地域在宅における看護活動の役割を説明できる。				NS(1)～(5)	
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法		学習課題・学習時間 (時間)	
1	訪問する際のマナーや心構えを学習する。		講義・GW		訪問する際の心構えを復習する。	1
2	在宅療養支援の場を学ぶ。① (療養の場の移行)		講義		療養移行の学びをまとめる。	1
3	在宅療養支援の場を学ぶ。② (訪問看護場面)		講義・GW		訪問看護の特徴をまとめる。	1
4	地域在宅看護におけるアセスメント技術を学ぶ。		講義・GW・実技		療養者と家族を多角的にアセスメントする技術をまとめる。	1
5	在宅での日常生活援助を学ぶ。① (食生活)		講義・GW		食生活援助について基本的援助の知識を踏まえて在宅場面での工夫をまとめる。	2
6						
7	在宅での日常生活援助を学ぶ。② (排泄)		講義・GW		排泄援助について基本的援助の知識を踏まえて在宅場面での工夫をまとめる。	2
8						
9	在宅での日常生活援助を学ぶ。③ (清潔)		講義・GW		清潔・移動・活動援助について、基本的援助の知識を踏まえて在宅場面での工夫をまとめる。	2
10					在宅での日常生活援助を学ぶ。④ (移動・活動)	
11	在宅医療処置に関する看護を学ぶ。		講義・GW		在宅場面での医療処置管理における療養者・家族等への支援をまとめる。	3
12						
13						
14	事例で在宅看護の実際を学ぶ。 全授業のまとめ		講義・GW		在宅看護事例やこれまでの授業の学びを通して在宅療養における看護の役割をまとめる。	2
15						
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照					

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/在宅看護学】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	10	20	10	10	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	0	5	5	5	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	5	0	5	0	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験とする。試験の範囲は講義・演習全体を対象とし、授業内で学習した知識の理解を確認する内容とする。			試験後に試験問題と解答についてコメントする。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①		授業の学びを踏まえて、感想や考えを記述して提出を求めることがある。			コメントを入れて返却する。	
	②						
	③						
	④						
	⑤	✓					
成果発表	①		グループワークでの意見交換や発表を繰り返して、在宅看護特有のコミュニケーション技術や看護ケア技術を学生同士で学び合い共有していく。発表の場面では積極的な発言を求める。			成果発表について講評を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
ポートフォリオ	①	✓	初回授業で配布する「演習ガイド・記録用紙」に従い、課題に取り組む学びを整理していく。復習として教科書や資料を見直し学びをまとめる中で、学習への意欲や自己の課題を明らかにし「演習ガイド・記録用紙」を提出する。			コメントを入れて返却する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
その他	①	✓	全日程の出席を前提とする。理由のない欠席は授業への取り組みに姿勢・意欲の不足と捉え、評価に影響する。			欠席が続く、提出物が遅れるなどが生じた場合は個別に指導を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員		馬淵路子					
教 員 の 実 務 経 験		担当教員（渡邊）は、病院の看護師として2年、行政保健師として8年、訪問看護師として2年の実務経験を有する。					
実践的授業の内容		看護師や保健師としての経験を基に、地域在宅で生活されている療養者やその家族等の具体的な事例を交えながら講義を進め、実践をイメージしながら知識と技術の習得を目指す。					
そ の 他		・授業中の私語、他学生に迷惑をかける行為は禁止する。教員に質問がある場合は、手を挙げて意思表示し質問すること。					